



北海道

Hokkaido Tourism Organization

観光レポート

2023年
令和5年9月30日発行

秋号



北海道内の日本人延べ宿泊者数は、
2月以降5ヶ月連続で2019年同月を上回り、
コロナ禍前の水準に回復した

トピックス 新たな組織体制による活動がスタート！

北海道の延べ宿泊者数実績

2023年6月

- 北海道の延べ宿泊者数(全体)は、6月は332万人泊(前年同月比+36.6%、2019年同月比+7.6%)であった。昨年12月以来、6ヶ月ぶりに300万人泊を上回り、コロナ禍後の単月実績で昨年8月の344万人に次いで2番目に多かった。
- 北海道の日本人延べ宿泊者数は、6月は286万人泊(前年同月比+18.0%、2019年同月比+17.2%)であった。1月は2019年同月比が-0.6%となったものの、5か月連続で増加。日本人に関しては、ほぼコロナ禍前の水準に戻っている。
- 北海道の外国人延べ宿泊者数は、6月は46万4千人泊(前年同月+45万人、2019年同月比-28.5%)であった。新型コロナウイルスの水際対策が緩和され、コロナ禍前の水準には届かないものの、2019年同月比の約7割の水準にまで回復しており、順調な回復傾向が見られる。
- 居住地別・月別の推移は、道外居住者(外国人を除く)は6月155万人泊(前年同月比+24.7%、2019年同月比+23.5%)、道内居住者は6月121万人泊(前年同月比-4.0%、2019年同月比+15.8%)となった。

延べ宿泊者数データ(2023年6月第2次速報)

(単位:人泊)

	北海道			全国		
	全体	日本人	外国人	全体	日本人	外国人
2023.6	3,320,750	2,856,410	464,340	45,325,030	35,985,360	9,339,670
2019同月比	+7.6%	+17.2%	-28.5%	-1.1%	-0.7%	-2.6%
前年同月比	+36.6%	+18.0%	+4102.2%	+33.7%	+8.1%	+1445.5%



出典:「観光庁宿泊旅行統計調査」をもとに当機構作成
 注1:2023年6月は速報値。

来道者輸送実績

2023年7月

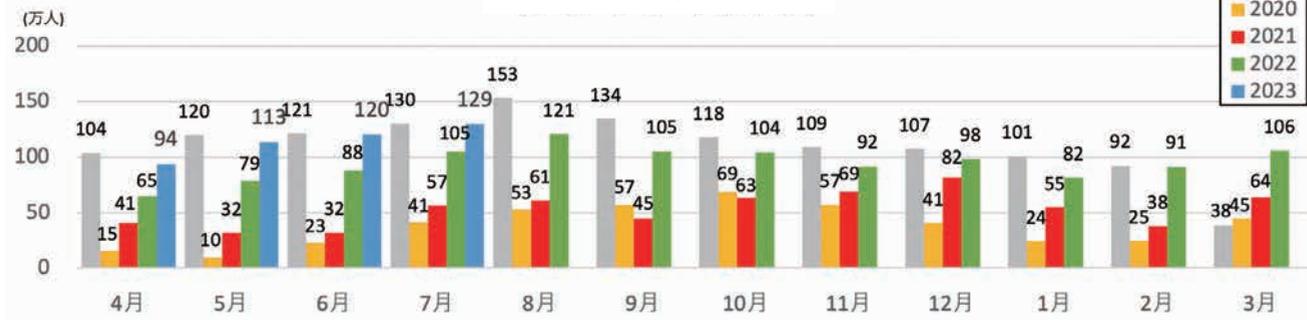
- 2023年7月の来道者数は129万人となり、前年同月比+22.7%であった。
- 感染拡大後の2019年7月と比較すると-0.4%となり5月から3ヶ月連続で100万人を上回り、コロナ禍前の水準まで回復している。
- 輸送機関別の来道者数は、航空機が111万人で前年同月比+21.4%、JRが7万8千人で前年同月比+50.4%、フェリーが10万5千人で前年同月比+19.8%となり、全ての輸送機関で前年同月を大きく上回った。
- 感染拡大前の2019年7月と比較すると発地別・着地別ともに来道者数は大幅に回復した。
- 発地空港別の来道者数は、関東が69万7千人と全体の63%を占め、次いで関西16万9千人(15%)、名古屋8万9千人(8%)、東北7万3千人(7%)、九州・沖縄3万7千人(3%)となった。
- 着地空港別の来道者数は、新千歳・丘珠が89万5千人と全体の81%を占め、次いで函館6万6千人(7%)、旭川5万5千人(5%)、帯広3万人(3%)、釧路2万6千人(2%)、女満別2万4千人(2%)となった。

来道者輸送実績(輸送機関別)

(単位:人)

	総数	航空機	JR	フェリー
2023.7	1,293,600	1,109,813	78,200	105,587
2019同月比	-0.4%	0%	+2.6%	-6.2%
前年同月比	+22.7%	+21.4%	+50.4%	+19.8%

来道者の推移(年度月別)



来道者輸送実績(発地空港別)

(単位:人)

	東北	関東	北陸・信越・東海	名古屋	関西	中国・四国	九州・沖縄
2023.7	73,353	696,837	31,852	89,132	168,877	13,247	36,515
2019同月比	-0.5%	-4.8%	+21.2%	+11.5%	+11.2%	-2.1%	+9.8%
前年同月比	+36.3%	+21.1%	+35.2%	+18.4%	+17.4%	+44.3%	+9.2%

来道者輸送実績(着地空港別)

(単位:人)

	新千歳・丘珠	函館	旭川	帯広	釧路	女満別	稚内	紋別	中標津
2023.7	894,515	65,977	55,497	29,915	25,706	24,396	7,448	2,536	3,823
2019同月比	+1.7%	-1.9%	-1.0%	-3.1%	-2.9%	-25.2%	-21.6%	-18.0%	-16.0%
前年同月比	+22.3%	+14.9%	+12.1%	+20.6%	+30.4%	+24.5%	+11.8%	+15.3%	+36.5%

出典:「北海道観光振興機構来道者輸送実績調査」をもとに作成

今号の注目!

1~6月の北海道への外国人延べ宿泊者数は、1位台湾、2位韓国、3位香港

外国人旅行者の入国も解禁になったことにより、4月以降も北海道に多くの外国人が訪れた。北海道においては、上位5位までがアジア圏からの来訪となっており、北海道人気の高さが伺える。全国と比較すると、国籍に大きな違いは見られないが、全国では、欧米豪からの来訪も多く見られた。2019年度の訪日外国人来道者の宿泊延べ数は、中国が200万人泊と1位となっており、今後、中国の宿泊者数増加も期待できるが、一方で、東京電力福島第一原発の処理水放出など社会情勢の変化等を注視していく必要がある。

国籍(出身地)別外国人延べ宿泊者数(令和5年1~6月第2次速報)

順位	北海道		全国	
	国籍(出身地)	人泊	国籍(出身地)	人泊
1位	台湾	588,740	韓国	6,039,490
2位	韓国	583,710	台湾	5,406,080
3位	香港	266,390	アメリカ	4,692,530
4位	タイ	174,440	香港	2,916,220
5位	シンガポール	153,250	中国	2,894,510
6位	アメリカ	123,990	タイ	1,581,700
7位	中国	122,820	オーストラリア	1,532,950
8位	オーストラリア	102,670	シンガポール	1,420,930
9位	マレーシア	72,490	イギリス	820,530
10位	インドネシア	36,830	カナダ	708,790

出典:「観光庁宿泊旅行統計調査」をもとに当機構作成

組織・執行体制を見直し、 理事・幹事による活動がスタート!



令和5年度通常総会の様子

去る6月26日、当機構は令和5年度通常総会を札幌グランドホテルで開催し、令和4年度事業決算（議案第1号）のほか、令和5年度からの新役員体制に係る定款変更（議案第2号）、令和5年度理事・監事候補（議案第3号）などについて、満場一致で可決承認されました。

新しい役員体制については、本年2月に外部の有識者が小金澤会長に手交した改革提言の内容に基づくもので、7月24日より3名の副会長と9名の理事からなる、3部会（観光地づくり（部会長・唐神副会長）・プロモーション（部会長・清水副会長）・マーケティング（部会長・平島副会長））の活動がスタートしています。

現在、令和6年度の当機構事業予算について北海道への要望を手始めとして、集中的に議論が行われています。

また、機構の財務面での機能強化等を議論する総務本部部会（部会長・加森理事）、さまざまな企業・業界の代表者の方々などから構成される幹事会（構成メンバー：相談役・顧問・幹事）の議論もスタートしています。

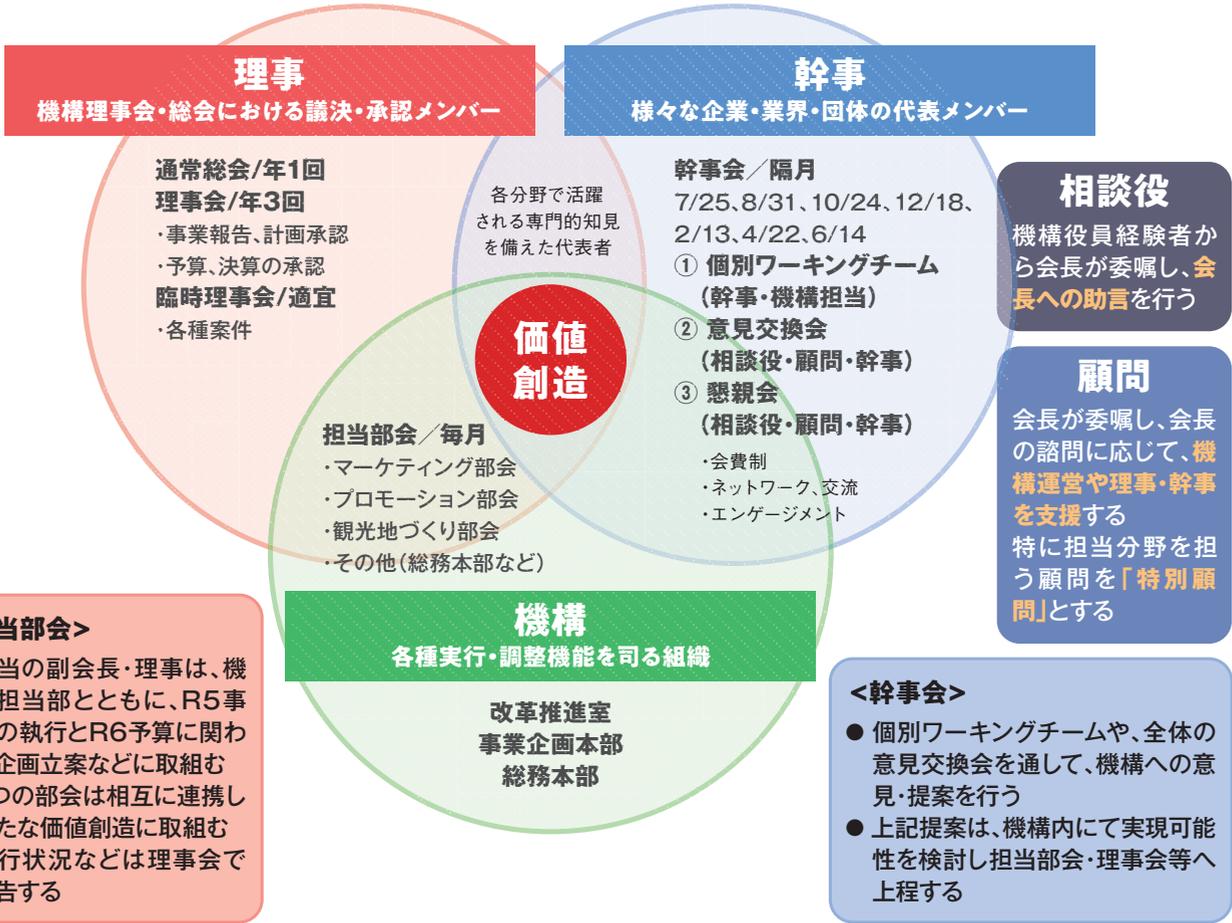
幹事会では、ランドデザイン、高付加価値、MaaS、プロダクト（自主財源）の4つの分野でワーキングチームを立ち上げ、毎回テーマに沿った形で新たな価値創造に取り組んでいます。さらに、業界や地域からの意見集約や、理事の活動をサポートする立場で、闊達な意見交換が交わされています。今後も北海道観光の更なる発展に向け活動を継続して参ります。



令和5年度通常総会後の会長・副会長への記者会見(6月26日)



観光地づくり部会の様子(8月23日)



北海道観光PRキャラクター

キュンちゃんグッズ

好評発売中!!

北海道観光振興機構では、北海道観光PRキャラクター『キュンちゃん』グッズを販売しております。キュンちゃん公式ネットショップでは、ぬいぐるみやトートバックなど様々なアイテムを取り扱っております。**この秋からは新商品も続々登場予定!**

🛒 キュンちゃん公式ネットショップ



<https://kyunchanshop.official.ec/>

キュンちゃんグッズを販売していただける店舗も募集しております。詳しくはマーケティング部までお問い合わせ下さい。



お問い合わせ先

☎ 011-231-0941 (担当:大宮宛)

✉ y_omiya@visithkd.or.jp

※各部で展開している事業の一例をご報告いたします。

プロモーション部(海外)

シンガポール・マレーシアの高付加価値旅行者の北海道への誘客促進!

当機構は、訪日意欲が高く高所得者層も多いシンガポール・マレーシア市場をターゲットとして、「知られざる自然」に加え、「北海道のブランド食材を使用した健康的な食」、「ワインツーリズム」、「本物の体験」など高付加価値旅行をテーマにしたプロモーションを実施し、北海道の認知度やブランドの向上を図り、訪日旅行における消費単価が高い旅行者の北海道への誘客を促進します。8月28日から7日間、余市、ニセコ、洞爺、札幌、利尻、礼文、稚内にて富裕層向けの映像制作を行いました。



プロモーション部(国内)

札幌ドームで「大ほっかいどう祭」に出展

8月19日、20日に札幌ドームで開催された、「大ほっかいどう祭」に出展しました。当日は、全道から多くの自治体・観光協会などが地元の特産品販売や観光PR、ふるさと納税を紹介し、会場を盛り上げました。当機構では、今年度、SDGsも意識しリユースできる鮭箱を使用してディスプレイ台やカウンターなどブースを展開し、食や秋冬の北海道の魅力、HOKKAIDO LOVE! LINE公式アカウントの登録を来場者に呼びかけるなどのPRを行いました。2日間合計でイベント来場者は28,000名となりました。



マーケティング部

「北洋銀行・帯広信用金庫 インフォメーションバザール in Tokyo 2023」に出展

8月31日、9月1日の2日間、池袋サンシャインシティで開催された「北洋銀行・帯広信用金庫 インフォメーションバザール in Tokyo 2023」に出展しました。当機構が推進する北海道ケア・ツーリズムの取り組み周知と食の観点からケア・ツーリズムとの関連についてアンケート調査を行うとともに、道内各地におけるグルメ、体験、宿泊コンテンツについてのリーフレット等を設置しPRを実施しました。百貨店のバイヤーや商社、小売業など食品関連の関係者がブースを来訪され、当機構の取り組みに対し、多くの方に興味を持っていただきました。



マーケティング部

「アウトドアデイズジャパン札幌2023」に出展

6月3日、4日の2日間、北海道庁赤れんが庁舎前で開催された「アウトドアデイズジャパン札幌2023」に出展しました。イベント当日は、アドベンチャートラベル・ワールドサミット北海道・日本のPRの他、自治体、観光協会にも参加いただき、道内各地のアウトドア関連コンテンツのPRを実施しました。時折雨も降る空模様でしたが、多くのお客様にご来場いただきました。



地域観光部

令和5年度の地域の魅力を活かした観光地づくり推進事業の採択事業(2次募集分)が決定!

当事業は道内の自治体・観光協会等が主体となって、地域の様々な問題解決に向けて取り組む事業を支援する制度で、2次募集(6月上旬～7月上旬)を行い、地域単独枠24事業、広域連携枠9事業(令和5年8月採択済)の計33事業が外部の有識者による審査を経て採択事業と決定しました。今年度の採択件数は1次募集18事業、2次募集33事業合わせて51事業となります。

地域観光部

「記憶に残る フラノエリアにおけるワインツーリズム促進事業」

富良野市では、秋の富良野の食とワインを満喫する1泊2日のバスツアーを実施。富良野地方3つのワイナリー（多田農園、ドメヌレゾン、ふらのワイン）を巡るなど、参加者には大変好評でした。第2弾として10月までのワインタクシープランを販売。また、上記3つのワイナリーのワインを飲食店に持ち込み飲食できる「BYO」サービスの取組も開始しました。



地域観光部

「十勝が誇るアイヌ古式舞踊の販売コンテンツ造成・実証事業」

帯広アイヌ古式舞踊等観光コンテンツ化推進協議会（事務局：帯広市）では、8月に2日間限定の特別企画で、十勝川温泉ホテル大平原の中庭で、アイヌ古式舞踊を披露しました。「バッタキウポポ」という明治の開拓時代にバッタが十勝地方に発生した時の苦難を伝える踊りなどの演目を披露。3年目の事業で、来年度からは本格的に実施する予定です。



地域観光部

「厚真町震災学習プログラム」地元高校生ガイドによる震災学習プログラムを実施

厚真町観光協会では北海道胆振東部地震をきっかけに命の尊さ、防災、減災を考えていただくきっかけづくりを目的として、令和3年度から震災学習プログラムに取り組んでいます。プログラムでは実際に被害を経験した町民がガイドとなり、当時の状況、避難生活、現在の復興状況について被害の大きかった地域を回りながらガイドツアーを行っています。今年度からは新たに地元厚真高校と連携した高校生ガイド育成を行っており、次の世代の語り部を育成することで、持続可能な事業として発展しています。



※上記3事業は、「令和5年度地域の魅力を活かした観光地づくり推進事業」の採択事業です。

北海道観光振興機構 事業活動予定

2023年10月～

プロモーション部（海外）

「2023 Japanese Food Expo in ロサンゼルス」に初出展！

高品質でおいしい日本産食品を伝え、さらなる日本食市場の拡大に向けた取組とすることを目的としたイベントに初出展します（10月28日／来場者3,000名予定）。当イベントには、当機構の本年度重要施策の一つでもある「ワインツーリズム」の一環として、北海道のワイン、日本酒とそれに合うつまみとのマリアージュで「食」を堪能していただき、併せて観光をPRすることで、誘客に向けた取組を行って参ります。



過去のJapanese Food Expoの様子

プロモーション部（国内）

「ツーリズムEXPOジャパン2023」に出展

10月26日からインテックス大阪で開催される世界最大級の旅の祭典「ツーリズムEXPOジャパン2023」に北海道観光振興機構ブースを出展し、業界関係者向け展示商談会と一般消費者向け国内プロモーションを実施、HOKKAIDO LOVE! LINE公式アカウントの登録を来場者に呼びかけるなど、北海道旅行の需要喚起を醸成します。

10月28日、29日には、各北海道の地域が情報発信するステージ企画やワークショップ体験も展開します。



昨年のツーリズムEXPOジャパン2022の様子

NFTを活用した観光振興・地域活性化事例

～遙か遠くに見えていた未来は、今どこにある～

近年、新たなテクノロジーが観光産業に変革をもたらしているが、その中でも、NFT(Non-Fungible Token)と呼ばれる技術にも注目が集まっている。NFTは、ブロックチェーン技術を利用してデジタルコンテンツの所有権や真正性を確保するもの。様々な地域で事業が行われているが、観光振興・地域活性の新たな光になるのか。具体例と共に考えたい。



一つ目は、新潟県の中越地方にある長岡市山古志地域(旧山古志村)の事例。人口800人ほどで、多くの山間部と同様に人口減少に直面している。「日本の原風景が残る地域」として観光PRをしており、「雪の恵みを活かした稲作・養鯉」として日本農業遺産にも登録されている。このような過疎地域において、NFTを活用することで地域の持続可能性を追求する試みが行われているのだ。

山古志住民会議では、NFTを用いてアート作品(Colored Carp、以下Nishikigoi NFT)を発行、2021年12月より販売しており、このNFTを所有することでデジタル村民として認定される。世界中のどこからでも購入できるNishikigoi NFTにより、グローバルなデジタル関係人口(デジタル村民)が生まれることが大きな利点である。また、NFTの販売益により地域に必要なプロジェクトや課題解決事業を独自財源で推進することも可能になるかもしれない。NFT所有者専用のコミュニティも形成されており、「山古志」を存続・発展させるためのアイデアがリアルタイムで展開していると聞く。

Nishikigoi NFTの所有者のみが滞在できる宿泊施設の建設や、所有者のみに特別な体験を提供するなど、デジタル村民が現実世界でも楽しめる価値創出も見込まれ、ワクワク感が加速する。グローバルなデジタル住民の知恵、ネットワーク等が集約され、独自の財源・独自のガバナンスを構築し、「山古志」の持続可能性が高まることに期待が集まる。



北海道きたひろ観光協会(北広島市)では、2022年1月末～2月上旬の8日間で、実験的にNFTのアート作品を販売した(2万5千円)。抽選で1名のみ販売するという条件で、8日間でどれだけの人がNFTに興味を示すかと話題を集めたが、16名が申し込みを行ったという。JR北広島駅に設置されたQRコードを読み込むことで抽選に参加できるということで、実際に現地に足を運ぶ仕掛けを入れたことも当該事業の秀逸な点。今後は作品の種類を増やすことで販売規模を拡大する、販売スポットを複数設ける、所有者に特典を提示するなど様々な展開が考えられる。また、ふるさと納税の返礼品としては余市町が早く、国内最大級のNFTプロジェクトCryptoNinja Partnersとのコラボである「余市町ふるさとCNP2022」は222個の返礼品がなくなるのに必要とした時間は、たったの3分。余市町の人気ワイナリーが生産するワインの優先購入権の抽選券など、特典もついたNFTは多くの人の心を動かしたと言える。(上記2つの事業は、機構賛助会員「株式会社あるやうむ(札幌市)」のプロデュース)

しかし、NFTを活用した観光にはいくつかの課題も存在する。まず、NFTの技術や取引の仕組み、その可能性に対する理解が必要となる。2022年6月に実施されたMMD研究所の調査では、日本におけるNFTの認知度は30.8%であった(ちなみに保有率は3.2%)。

新しいテクノロジーが観光産業にもたらす変革は始まったばかり。NFTを活用した観光振興・地域活性化施策は、地域の魅力をより多くの人々に伝える新たな手段として期待されているが、地域の特性や本質的な課題を考慮することが鍵となりそうだ。人間が持つ豊かな感情や創造性と、テクノロジーの優秀さのバランスをとり、かつて遙か遠くに見えていた未来を引き寄せたい。

(Y.S)

株式会社あるやうむ

所在地：札幌市北区北38条西6-2-23カトラン麻生302号室

CEO
畠中 博晶 様



■ 貴社の創業の経緯を教えてください。

もともと札幌に興味を持ったのは高校生のときで、全国色々な地域を巡るなかで、札幌が特に好きな街となりました。特に大通り公園の町並みや気候が好きで、たくさんの温泉があることも魅力でした。定山溪温泉はもちろんですが、札幌市内にも気軽にいける温泉があり、ココロを奪われました。大学卒業後に札幌に移住し、2020年11月大学院在学中に現在の会社を立ち上げました。立ち上げ当初は、NFT関連の仕事ではなく、スマートフォンのスタンドなどの“商品”をつくって販売していましたが、2021年12月に業態転換し、現在に至っています。

ふるさと納税NFTは、たまたま興味を持ってくださる投資家との出会いもあり、事業としてスタートすることができました。当社は、「NFTによる地方創生」をミッションとして掲げております。NFTを通じて地域に埋もれる魅力を発掘し、日本全国、世界に届けることで、稼げる・盛り上がる地域づくりを支援しております。現在は、フルリモートで6名のスタッフが働いていますが、当社は「地域間格差の解消」をビジョンとしております。仕事をする場所によって可能性を制限されたくないという思いもあり、今後も基本的にはフルリモート体制で事業を進めて行こうと思っています。

■ 現在、取り組まれている活動と今後の展望、抱負について教えてください。

色々なご縁があって余市町、北広島市でデジタルアートを返礼品とする、ふるさと納税NFTの事業を始められました。今後もふるさと納税NFTは継続して行きたいと考えています。現在は、北海道観光振興機構様ともお話を進めていますが、「お土産カメラフレーム」の事業化を進めており、旅行者が旅先で楽しめる仕掛けを作っています。当社は地方創生をミッションとして掲げており、自治体と様々な接点があるので、見学施設、体験、観光スポット、公共交通機関などでお土産としてカメラフレームを旅行者に販売できれば、その施設や地域での消費額が上がることになり、旅に新しい付加価値をつけることができると考えています。お土産カメラフレームの良いところは、お土産を物理的に置けないような景観スポットなどでも、販売が可能となる点です。本来マネタイズが難しい場所でも消費促進、満足度向上が可能となれば、今までにない付加価値になると思います。

■ 観光におけるNFTの活用と可能性について教えてください。

ふるさと納税NFTは、デジタルデータをモノのように扱えるNFTという技術がなければできませんでした。以前であれば、ダウンロードしたデジタルコンテンツは、送ることはできるが価値はありませんでした。唯一性を証明したモノとして価値を持ち、さらに他人に送ることができるNFTには可能性しかありません。NFTを使えば、今まで消費がなされなかった観光資源、観光スポットなどでも、お土産カメラフレームなどの新しい仕掛けを取り入れることができます。また、入場料や入館料に付加価値としてNFTを販売することもできる。ご当地キャラクターとのコラボレーションや、ご当地アートの創出なども考えられます。ただ、NFTという言葉は、高級感やレア感を演出するには有効ですが、いつまでも特別なモノ、特別な人たちの趣味のようなポジションで留まってしまいます。これからはもっと生活に馴染むようにNFTを扱っていきたい、という思いがあります。ユーザー（旅行者）が気軽に使えるサービスや事業を展開していきたいです。



観光NFT(余市町)



観光NFT(北広島市)

「HOKKAIDO LOVE!」アクセス報告と分析について

▶北海道公式観光サイト「HOKKAIDO LOVE!」では、手軽に観光情報を提供できるよう取り組んでおります。中でも、自然検索からの流入増を目指していますが、SEOに取り組むにあたり重視しているGoogleでの検索クエリに係るデータ分析について報告します。

- 分析指標は、①検索クエリ（ユーザーが検索エンジンに入力した語句）、②表示回数（検索結果に表示された回数）、③クリック数（検索結果から当該URLをクリックした数）、④クリック率（クリック数÷表示回数）、⑤平均掲載順位（検索結果での表示順位）の5つです。
- データ出典はGoogleアナリティクスGA4、対象期間は2023年4月1日から2023年6月30日までの3カ月間です。

1.HOKKAIDO LOVE! サイトにどんな検索クエリで来訪しているのか？

- GA4から「Googleの自然検索クエリ」データ5,000件を取り出し、その中から「検索結果の平均掲載順位」が10位以内（検索結果で1ページ目に表示される）を4,726件抽出し、クリック数が多いものtop20で作表しました。ちなみに検索結果が1位のクエリは791件ありました。
- クリック率が高い（40%以上、緑セル）クエリに注目すると「北海道 フェリー」「北海道 ラベンダー」「然別湖 線路」となります。特にフェリーとラベンダーは他のワードと組み合わせて検索されることが多く、その種類は100件を超えます（詳細後述）

No.	検索クエリ	表示回数	クリック数	クリック率	平均掲載順位
1	北海道 観光	225,566	40,358	18%	2
2	北海道	1,666,853	32,685	2%	3
3	北海道 フェリー	35,529	18,960	53%	1
4	北海道観光	72,034	12,654	18%	2
5	富良野ラベンダー	56,027	7,235	13%	3
6	フェリー 北海道	16,384	7,045	43%	1
7	北海道フェリー	15,780	6,561	42%	1
8	すすきの	244,677	4,848	2%	4
9	利尻島	66,012	4,664	7%	5
10	北海道 ラベンダー畑	14,701	4,638	32%	3
11	北海道 ラベンダー	11,131	4,509	41%	1
12	北海道 観光コース	13,693	4,145	30%	1
13	神威岬	39,542	4,066	10%	3
14	豊平川花火大会	20,689	3,635	18%	3
15	富良野 ラベンダー	25,916	3,438	13%	3
16	北海道 イベント	20,538	2,973	14%	2
17	然別湖 線路	4,895	2,752	56%	1
18	川湯温泉	46,894	2,610	6%	4
19	ラベンダー 北海道	5,868	2,550	43%	1
20	釧路湿原	43,372	2,435	6%	5

※検索結果の掲載順位別クリック率：1位のクリック率は20%、2位は10%で、2ページ目以降はほぼクリックされていない、とされています。

2.狙ったキーワードはどれくらいクリックされ、平均何位くらいで表示されているのか？

- 1で抽出した4,726件のうち、下記のワードを含む検索クエリ数（種類）、クリック数、平均掲載順位で作表しました。
- 検索クエリ数が上位の「札幌」「祭り or まつり」は、「札幌+日帰り」「地域名+祭り」など様々なワードと組み合わせて検索されていることから数（種類）が多いです。
- クリック数で見ると「ラベンダー」「フェリー」が多く、「ラベンダー+時期・見頃」「フェリー+航路」などと組み合わせての検索が多くなっています。

「HOKKAIDO LOVE!」アクセス報告と分析について

No.	クエリに含まれるワード	検索クエリ数(種類)	クリック数	平均表示順位
1	「札幌」	399	32,878	4位
2	「祭り or まつり」	367	22,544	5位
3	「ラベンダー」	238	47,323	2位
4	「小樽」	153	9,961	4位
5	「桜」	152	8,066	4位
6	「花火」	148	15,233	4位
7	「温泉」	138	7,729	6位
8	「フェリー or 船」	137	45,061	4位
9	「函館」	126	6,059	4位
10	「釧路」	84	8,226	5位
11	「旭川」	28	1,388	5位

※検索ワードの組み合わせ：注目されているキーワードなどの検索クエリのトレンドを知ることができるGoogle Trendsを活用しています。

3.今後の取組

滞在時間が長く、他頁への遷移率も大きい自然検索からのアクセスを増加させるには①検索結果における表示回数を増やす②クリック率をあげる、ことが重要であることから、表示回数が多いが平均掲載順位が低いコンテンツの品質向上(紹介文のリライトや画像の追加など)を図る、また様々な種類の検索クエリに対応できるよう、受け皿となるコンテンツを増やしていく、ことで上位表示を目指して行きたいと考えています。

キュンちゃんの小部屋



北海道の観光案内所



「どさんこ旅サロン」は、「北海道どさんこプラザ」(北海道のアンテナショップ)がある、東京交通会館の3階(札幌市東京事務所内)にございます。(JR有楽町駅下車すぐ)
道内各地のパンフレットを取り揃えているほか、スタッフによる観光・イベント情報の案内や旅行相談も承っています。

JR札幌駅の「北海道さっぽろ食と観光情報館」内にあり、専門のスタッフが日本語以外に、英語、中国語、韓国語で旅行相談に応じ、最新の観光情報を提供致します。また、観光振興機構作成のパンフレットのほか、会員施設のパンフレットが各種陳列されています。

住所／東京都千代田区有楽町2丁目10-1
東京交通会館3階
営業時間／11:00～19:00
定休日／土・日・祝、年末年始、施設の全館休業日
問合せ／電話03-6206-3163

住所／札幌市北区北6条西4丁目JR札幌駅西コンコース北口「北海道さっぽろ食と観光情報館」内
営業時間／8:45～20:00 定休日／年中無休
問合せ／電話011-213-5088



**北海道観光振興機構
LINE公式アカウント**
北海道の旬な情報はこちらから！
お友達登録が約29万人を突破
(※2023年8月末現在)
キュンちゃんが道内各地を紹介中!!

会員募集中!

入会申込みの詳細は、
お問い合わせください。



■本レポートに関するお問い合わせ先

公益社団法人北海道観光振興機構
マーケティング部
〒060-0003
札幌市中央区北3条西7丁目1番1 緑苑ビル1階
TEL 011-231-0941 FAX 011-232-5064

mega

北海道の観光を共創する

Communication : Marketing research / Planning / Sales Promotion / Branding
Digital Marketing : Web Marketing / SNS Management / Web Analytics / Movie Promotion
Event & Campaign : Event Produce / Space Produce / Campaign Management
Creative : Design / CI&VI / CoCopywriting / CM / Movie
Promotion : Area Promotion / Tourism Promotion / Inbound Promotion / Online Sales Promotion

